

# 平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

## 「子どもは地域の宝～子どもの学びを核としたコミュニティ再生に向けて～」

### 取組事業名

・学校支援地域本部 ・放課後子ども教室

### 岩手県宮古市

### 学校名

山口小学校 津軽石小学校 茂市小学校 墓目小学校 宮古西中学校  
刈屋小学校 和井内小学校 川井小学校 門馬小学校

※該当する内容に○

活動内容	学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
		○	○	○	○	○
	放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
		○	○	○		
	学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
地域課題に応じた学習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	

### 取組概要

#### 【学校支援地域本部】

山口小学校、津軽石小学校、茂市小学校、墓目小学校、宮古西中学校の4小学校1中学校で実施した。

- ・山口小学校：交通安全指導、読み聞かせ、図書室整備、部活動支援、環境整備、行事補助（マラソン大会補助等）、授業補助等
- ・津軽石小学校：読み聞かせ、登下校安全指導、むかし遊び、環境整備、さんさ踊り伝承活動、授業補助（新巻鮭作り、家庭科補助等）等
- ・茂市小学校：登下校安全指導、学習支援（学校農園の指導、手話、土食の指導等）、環境整備、行事補助（さんさ踊り指導、展示作品の提供）、読み聞かせ等
- ・墓目小学校：学習支援（農園活動・郷土芸能伝承活動・「墓目弁」の学習補助）、行事補助（運動会等）、環境整備、登下校時及び体育行事等の安全指導等
- ・宮古西中学校：学習支援（特別支援学級授業補助等）、図書室整備、環境整備、登下校安全指導等

#### 【放課後子ども教室】

茂市小学校、墓目小学校、刈屋小学校、和井内小学校、川井小学校、門馬小学校の6小学校で実施した。普段は各学校ごとの実施であるが、全地区合同の交流会を2回実施した。

- ・茂市小学校、墓目小学校、刈屋小学校、和井内小学校：宿題、ボール遊び、自由遊び、工作（プラ版作り、カレンダーづくり等）等
- ・川井小学校：宿題、読み聞かせ、自由あそび、クリスマス会及びそれに伴う装飾づくり等
- ・門馬小学校：伝統芸能の練習、野外観察、スキー練習
- ・合同交流会：夏休みと冬休みに計2回、放課後子ども教室参加児童を対象に交流会を実施。夏休みには流しそうめん大会及びプラ版作り、冬休みはみずきだんごとひつつみ作りを行った。

### 事業成果

#### 【学校支援地域本部】

- ・公営住宅の完成や復興道路整備の進捗等、日に日に学校周辺の状況が変化する中で、地域の方が毎日登下校を見守り、指導して下さったり、地域の伝統芸能や遊びを伝承して下さることは、学校、そして子ども達の学びを通じて地域コミュニティの再生・地域力の強化に明らかに寄与していると考えられる。ボランティア登録人数が平成25年度137人、平成26年度203人、平成27年度240人と着実に増加していることは、その成果を示す指標である。
- ・既実施校では、地域の方々の学校に来ることへの抵抗が年々少なくなり、「子ども達と一緒に活動する喜びを感じた」という声を多数いただいている。地域の方は、学校に子や孫がいなくても、子ども達の活躍を楽しみにし、そして子ども達の学びへ貢献できることが更なる協力への原動力になっていると言える。また、取り組み内容も、前年度までの取り組み



地域の方と児童による休止中のJR山田線付近のゴミ拾い（奥は災害公営住宅）

## 平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

みを継続しつつ、例えば山口小学校では、NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワークの協力のもと地域の方を運営スタッフとして養成し、学区内の公園に仮設住宅が建設されて遊び場が少なくなり、体を動かす機会が減ってしまった子どもたち向けに「えいごであそぼう」という新たな放課後の体験教室を行うなど、新たな事業を実施することができた。

・新規実施校では、年度初めに取り組み開始とボランティア募集のお知らせを、年度末に活動報告書を地区の全戸に配布し、学校が地域に対し「地域ぐるみでの子育てに取り組む」ことを広く周知したことで、老人クラブやさんさ踊り保存会、漁協など多くの方に協力をいただくことができた。

・茂市小学校及び墓目小学校は今年度をもって別の学校に統合となるが、いずれも年度を重ねるごとに学校に関わってくださる地域の方が増え、活動が充実していった。茂市小学校においては、事業を開始した平成 20 年度当初は 31 人

(登録人数) だったボランティアが今年度は 83 人に、墓目小学校においては同じく平成 25 年度当初 20 人だったのが 28 人に増加した。「統合後も学校支援活動に関わりたい」という方も多くおり、統合後も地域と学校が連携し、子育てに取り組むための土台を作ることができたと言える。

### 【放課後子ども教室】

・全小学校平均で 90% 以上の児童が教室に参加した。「今日も放課後子ども教室に寄って行こう」という会話が自然に児童の中で出てくるほど、放課後の児童の居場所として定着した。

・アンケートによると、放課後子ども教師に子どもを参加させた保護者のうち、約 30% は参加させた理由として、地域の人の見守りのもと、安心・安全に放課後を過ごせることを挙げている。地域住民による放課後の見守りは、児童と地域住民のふれあいの機会を確保することができているとともに、放課後対策として効果を発揮している。

・放課後子ども教室では、児童は遊びや体験活動の前にまず安全管理員の指導の下宿題を行うことを基本としていたことで、宿題を行う習慣づけができ、また児童が家庭に帰ってからは家族で交流できる時間が増えた。



放課後子ども教室合同交流会（流しそうめん）の様子

## 課題と今後の取組

### 【学校支援地域本部】

・地域の方による学校支援活動は定着・拡大しているものの、PTA（保護者）の参加拡大が依然として課題となっており、いかに興味を持ってもらい、活動に巻き込むかが今後の検討事項である。併せて、若い世代を巻き込み、将来を見据え継続性を持った取り組みにつなげる必要がある。

・今後は、地域の企業も事業に関わりを持たせ、キャリア教育にも地域力を取り入れる取り組みを進める必要がある。

・茂市小学校及び墓目小学校を含む 4 校の統合先である新里小学校においては、これまで築いた茂市・墓目地域との連携だけでなく、事業を実施していなかった他地域においても学校との関わり合いを持てるような関係づくりを進める必要がある。

### 【放課後子ども教室】

・地域への親しみを深めるための機会として、伝統芸能の伝承活動等、地域性のある活動を充実させていくことが必要である。